

「深刻だ」

小此木政夫慶応大  
学名誉教授がそう話  
しかけてきた。今月  
22日、ソウルの日本



論説委員  
森 千春

大使公邸でのことだ。有識者が日  
韓関係を議論する「日韓フォーラ  
ム」の一行が招かれ、夕食会が開  
かれようとしていた。小此木氏は  
フォーラム日本側議長で、記者も  
メンバーの一員だ。

直前に、韓国が日本との「軍事  
情報包括保護協定」(GSOMI  
A)の破棄を決定したという速報  
が飛び込んでおり、日韓関係の悪  
化が対話のテーマになった。

午前の討論の中で「日韓関係は  
『戦後最悪』なのか」という問題  
提起があったことも、2人の念頭  
にあった。

第2次世界大戦後、大韓民国が

## 日韓関係は最悪か、深刻か

建国され、李承晩が大統領に就任  
した。1952年、海上に「李承  
晩ライン」を一方的に設定した。  
韓国当局が日本漁船を多数拿捕  
し、日本漁民の中には銃撃で死亡  
した者もいた。当時と比べて、今  
日の関係がより悪いと言えるのか  
——という問いであった。

小此木氏は、日韓関係の現況は  
「65年の国交正常化以降で最も深  
刻」と表現するのが適当だ、と語  
った。同年に結ばれた条約・協定  
からなる両国関係の基盤を、韓国  
側が揺るがしているからだ。

なるほど、と受け止め、思いを  
巡らした。関係が「悪い」という  
単純な表現では捉えきれない事態  
が起きている。両国の関係は、李  
承晩の時代とも、国交正常化後の  
数十年とも質的に異なる、不安定  
な段階に入ったのだ。